山 梨 県
Yamanashi Prefecture

公表日　令和8年11月9日(月)

山梨県景気動向指数(CI)

令和8年8月分

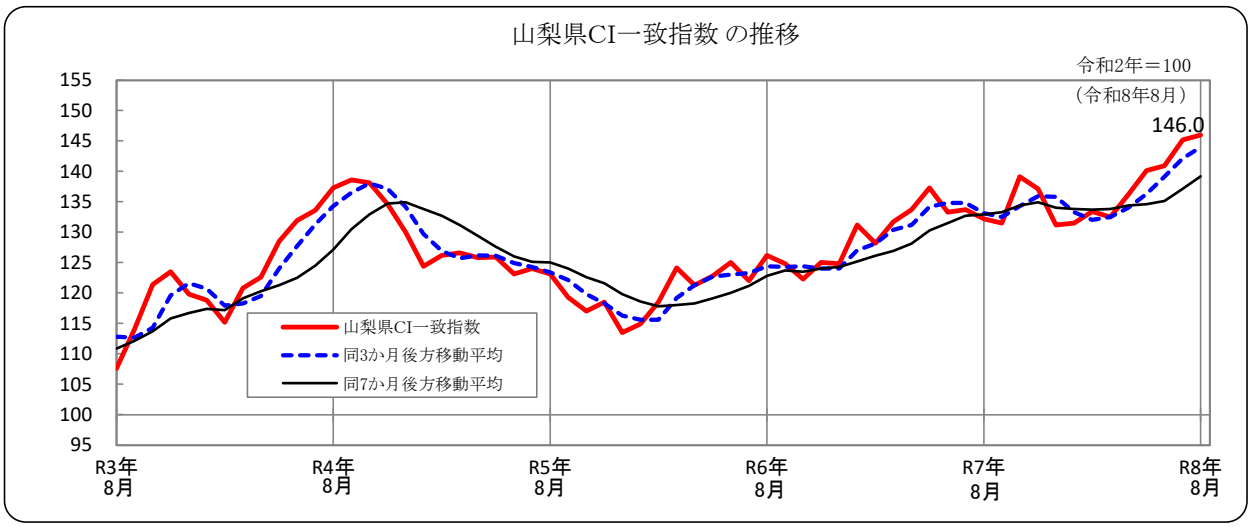
景気の先行きを示す**先行指数**は 174.4 となり、前月と比較して 4.2 ポイント 上昇し、3か月ぶりの 上昇となった。

景気の現状を示す**一致指数**は 146.0 となり、前月と比較して 0.8 ポイント 上昇し、5か月連続の 上昇となった。

景気に遅れて動きを示す**遅行指数**は 176.5 となり、前月と比較して 1.5 ポイント 下降し、2か月ぶりの 下降となった。

＜CI一致指数の前月差に対する個別系列の寄与度＞

寄与度がプラスの系列	寄与度	寄与度がマイナスの系列	寄与度
県立美術館・富士山世界遺産センター(北館)来館者数	1.65	所定外労働時間指数(製造業30人以上)	△ 2.27
有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	0.97		
鉱工業生産指数(鉱工業)	0.32		
百貨店・スーパー販売額[前]	0.11		



山梨県　新価値創造推進局　統計調査課

＜問い合わせ先＞　分析担当
電話　:055-223-1344 ／ FAX :055-223-1347
E-Mail:toukei@pref.yamanashi.lg.jp
HP:https://www.pref.yamanashi.jp/toukei_2/

目　次

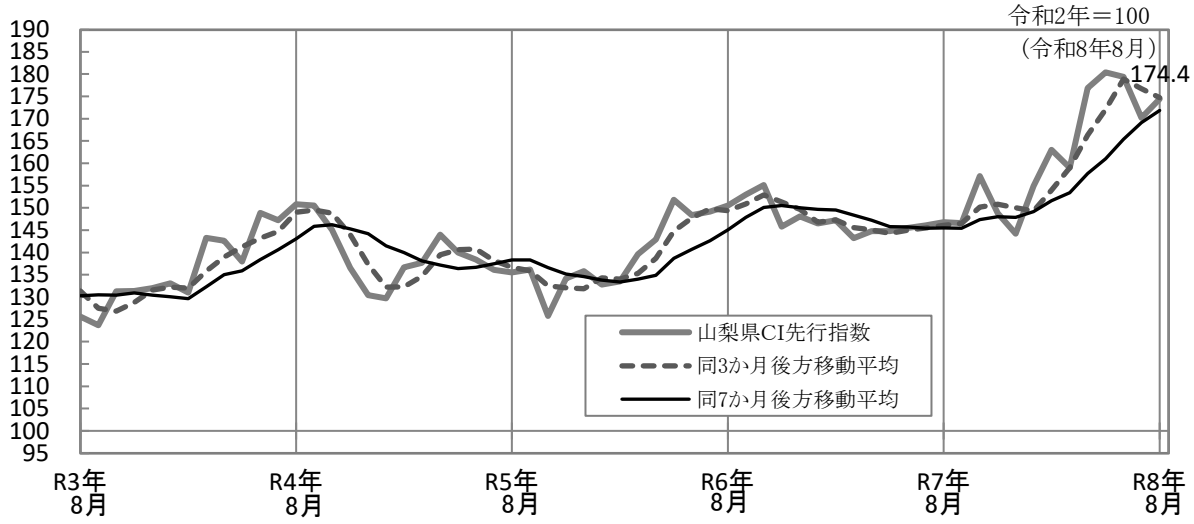
１　山梨県CI先行指数の動向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
　⑴　山梨県CI先行指数の動き
　⑵　山梨県CI先行指数の推移
　⑶　山梨県CI先行指数　採用系列の寄与度
２　山梨県CI一致指数の動向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
　⑴　山梨県CI一致指数の動き
　⑵　山梨県CI一致指数の推移
　⑶　山梨県CI一致指数　採用系列の寄与度
３　山梨県CI遅行指数の動向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
　⑴　山梨県CI遅行指数の動き
　⑵　山梨県CI遅行指数の推移
　⑶　山梨県CI遅行指数　採用系列の寄与度
４　CI時系列グラフ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
５　山梨県CI時系列表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
６　(参考)山梨県DIの動向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
７　(参考)山梨県DI変化方向表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
８　(参考)山梨県DI時系列グラフ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
９　(参考)山梨県DI時系列表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
10　(参考)DI累積一致指数時系列グラフ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10
11　山梨県景気動向指数個別系列の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11
12　山梨県景気動向指数個別系列の数値 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12
13　利用の手引き ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13

1　山梨県CI先行指数の動向

(1)　山梨県CI先行指数の動き

8月の山梨県CI先行指数(R2＝100)は 174.4 となり、前月と比較して4.2ポイント上昇し、3か月ぶりの上昇となりました。3か月後方移動平均は 2.00ポイント下降し、2か月連続の下降、7か月後方移動平均は 2.79ポイント上昇し、8か月連続の上昇となりました。

(2)　山梨県CI先行指数の推移



(3)　山梨県CI先行指数　採用系列の寄与度 注1

		令和8年 3月	4月	5月	6月	7月	8月
山梨県CI先行指数		159.0	176.9	180.4	179.4	170.2	174.4
	前月差(ポイント)	△ 4.0	17.9	3.5	△ 1.0	△ 9.2	4.2
1 鉱工業在庫率指数(逆) 注2	前月比伸び率(%)	△ 3.7	△ 9.7	△ 5.0	10.1	6.7	△ 8.9
	寄与度	1.32	3.35	1.84	△ 3.12	△ 1.99	3.10
2 鉱工業生産指数(生産財)	前月比伸び率(%)	1.3	8.4	△ 9.7	3.3	△ 0.7	△ 0.2
	寄与度	0.70	3.87	△ 2.89	1.73	△ 0.24	△ 0.08
3 新規求人数	前月比伸び率(%)	0.0	△ 5.4	12.0	0.6	△ 3.2	7.0
(新規学卒を除く全数)	寄与度	0.01	△ 1.21	3.69	0.17	△ 1.10	2.08
4 新設住宅着工戸数[前]	前月差	△ 88.5	7.1	27.2	11.3	△ 40.7	△ 5.1
	寄与度	△ 4.43	0.36	1.62	0.67	△ 2.35	△ 0.29
5 東証業種別株価指数	前月差	△ 18.4	27.9	18.0	4.6	△ 20.4	3.3
(電気機器)[前]	寄与度	△ 3.33	5.42	3.63	0.83	△ 4.20	0.59
6 法人企業景気予測調査・貴社の	前月差	4.9	△ 8.2	△ 8.2	△ 8.2	5.3	5.3
景況判断BSI(中小企業 全産業 翌期)	寄与度	1.60	△ 1.71	△ 3.13	△ 3.08	2.01	1.92
7 新車登録・届出台数	前月比伸び率(%)	△ 4.6	12.8	△ 10.2	12.7	△ 7.7	△ 14.2
(乗用車・貨物車)	寄与度	△ 1.49	3.71	△ 3.74	3.86	△ 2.79	△ 4.77
8 日経商品指数(42種総合)	前月比伸び率(%)	1.8	3.5	2.1	△ 1.2	1.3	1.3
	寄与度	1.36	3.49	1.87	△ 2.52	0.98	0.83

3か月後方移動平均		159.0	166.3	172.1	178.9	176.7	174.7
	前月差(ポイント)	4.94	7.33	5.80	6.80	△ 2.23	△ 2.00
7か月後方移動平均		153.4	157.7	161.0	165.4	169.1	171.9
	前月差(ポイント)	1.74	4.33	3.33	4.37	3.71	2.79

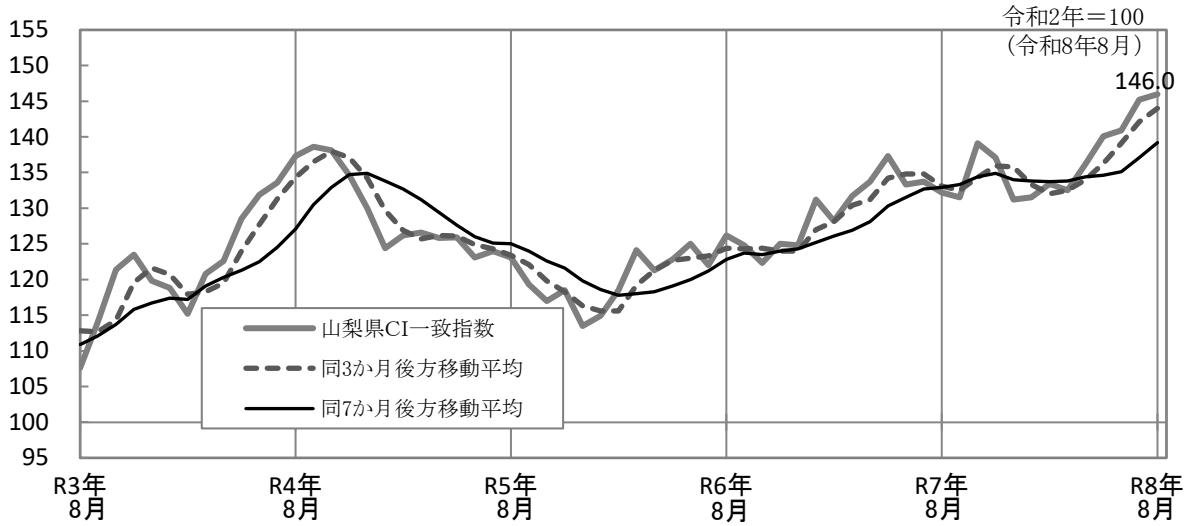
注1:山梨県CIの前月からの変化(前月差)が、各採用系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。
注2:(逆)とは逆サイクルのことを示し、採用系列が景気の動きに対し反対の方向に動くことをいう。
　　指数の前月差がプラスになれば、CI先行指数に対する寄与度のマイナス要因となり、マイナスになればプラス要因になる。

2　山梨県CI一致指数の動向

(1)　山梨県CI一致指数の動き

8月の山梨県CI一致指数(R2＝100)は 146.0 となり、前月と比較して 0.8ポイント上昇し、5か月連続の上昇となりました。3か月後方移動平均は1.96ポイント上昇し、6か月連続の上昇、7か月後方移動平均は 2.08ポイント上昇し、6か月連続の上昇となりました。

(2)　山梨県CI一致指数の推移



(3)　山梨県CI一致指数　採用系列の寄与度　注1

		令和8年 3月	4月	5月	6月	7月	8月
山梨県CI一致指数		132.5	136.2	140.1	140.9	145.2	146.0
	前月差(ポイント)	△ 0.9	3.7	3.9	0.8	4.3	0.8
1 鉱工業生産指数(鉱工業)	前月比伸び率(%)	△ 4.6	4.8	1.1	1.6	△ 0.9	0.8
	寄与度	△ 1.63	1.66	0.41	0.58	△ 0.34	0.32
2 百貨店・スーパー販売額[前]	前月差	△ 2.7	1.9	2.9	△ 6.2	3.0	0.3
	寄与度	△ 0.94	0.68	1.06	△ 2.30	1.14	0.11
3 所定外労働時間指数	前月比伸び率(%)	△ 6.1	2.9	△ 1.6	6.3	7.4	△ 6.9
(製造業30人以上)	寄与度	△ 1.80	0.83	△ 0.48	1.87	2.24	△ 2.27
4 有効求人倍率	前月差	0.04	△ 0.01	0.00	0.05	0.05	0.03
(新規学卒を除く全数)	寄与度	1.07	△ 0.48	△ 0.11	1.70	1.73	0.97
5 県立美術館・富士山世界遺産	前月比伸び率(%)	22.9	6.9	27.8	△ 11.6	△ 6.6	10.8
センター(北館)来館者数	寄与度	2.40	1.06	2.97	△ 1.06	△ 0.48	1.65
3か月後方移動平均		132.5	134.0	136.3	139.1	142.1	144.0
	前月差(ポイント)	0.44	1.56	2.24	2.80	3.00	1.96
7か月後方移動平均		133.8	134.4	134.6	135.1	137.1	139.2
	前月差(ポイント)	0.05	0.67	0.14	0.54	2.00	2.08

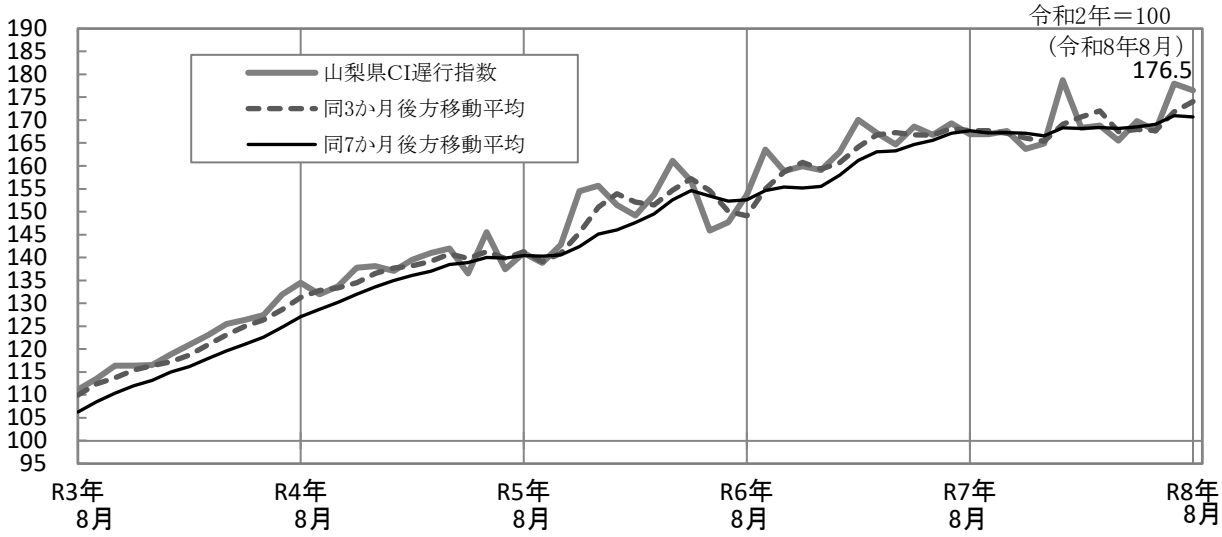
注1:山梨県CIの前月からの変化(前月差)が、各採用系列からどの程度もたらされたのかを示した数値

３ 山梨県CI遅行指数の動向

(1) 山梨県CI遅行指数の動き

8月の山梨県CI遅行指数(R2＝100)は 176.5 となり、前月と比較して 1.5ポイント下降し、2か月ぶりの下降となりました。3か月後方移動平均は 2.24ポイント上昇し、2か月連続の上昇、7か月後方移動平均は 0.33ポイント下降し、4か月ぶりの下降となりました。

(2) 山梨県CI遅行指数の推移



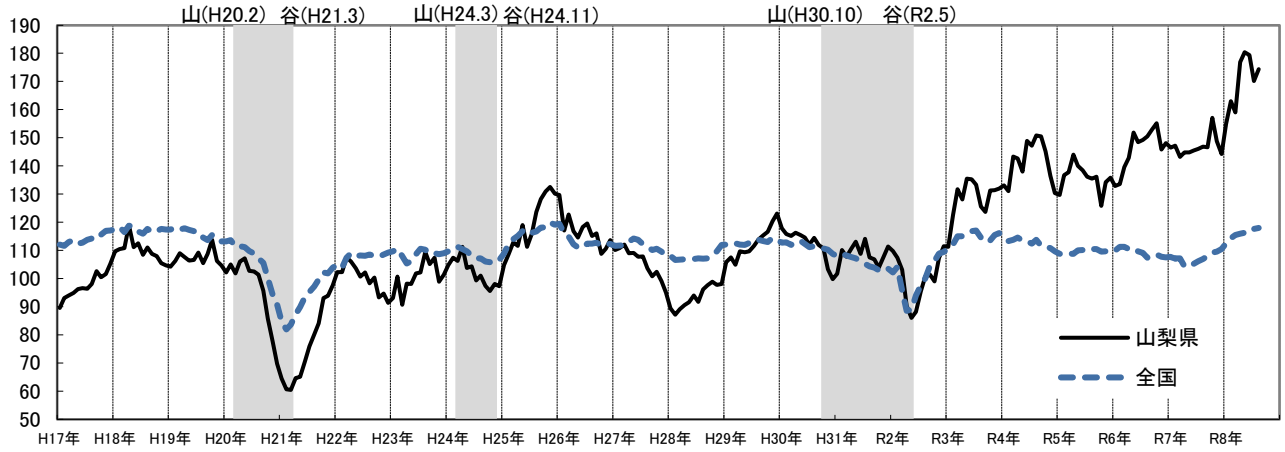
(3) 山梨県CI遅行指数 採用系列の寄与度 注1

		令和8年 3月	4月	5月	6月	7月	8月
山梨県CI遅行指数		168.8	165.5	169.8	167.7	178.0	176.5
	前月差(ポイント)	0.5	△ 3.3	4.3	△ 2.1	10.3	△ 1.5
1 実質法人企業設備投資(製造業)	前月比伸び率(%)	△ 0.1	0.6	0.6	0.6		
	寄与度	△ 0.39	0.08	0.08	0.08		
2 第3次産業活動指数	前月比伸び率(%)	0.4	△ 0.5	△ 0.3	1.2	△ 1.2	0.9
(対事業所サービス業)	寄与度	0.27	△ 0.85	△ 0.61	1.41	△ 2.29	1.32
3 家計消費支出(二人以上の世帯)	前月比伸び率(%)	9.9	△ 15.6	36.7	△ 27.0	11.0	△ 5.0
	寄与度	1.34	△ 2.37	3.61	△ 3.60	1.87	△ 0.91
4 常用雇用指数	前月差	△ 4.4	0.0	0.9	2.0	2.0	△ 6.4
(製造業30人以上)[前]	寄与度	△ 2.61	0.00	1.73	3.15	4.61	△ 4.59
5 有効求職者数(逆) 注2	前月比伸び率(%)	△ 0.7	0.3	0.4	△ 0.4	△ 1.6	0.3
	寄与度	0.62	△ 0.45	△ 0.54	0.35	1.99	△ 0.60
6 法人事業税(調定額)	前月比伸び率(%)	14.4	△ 0.6	△ 3.9	△ 40.5	41.4	24.7
	寄与度	0.99	△ 0.29	△ 0.55	△ 3.93	3.71	2.30
3か月後方移動平均		172.0	167.5	168.0	167.7	171.8	174.1
	前月差(ポイント)	1.30	△ 4.44	0.50	△ 0.36	4.16	2.24
7か月後方移動平均		168.4	168.2	168.5	169.1	171.0	170.7
	前月差(ポイント)	0.27	△ 0.20	0.31	0.57	1.88	△ 0.33

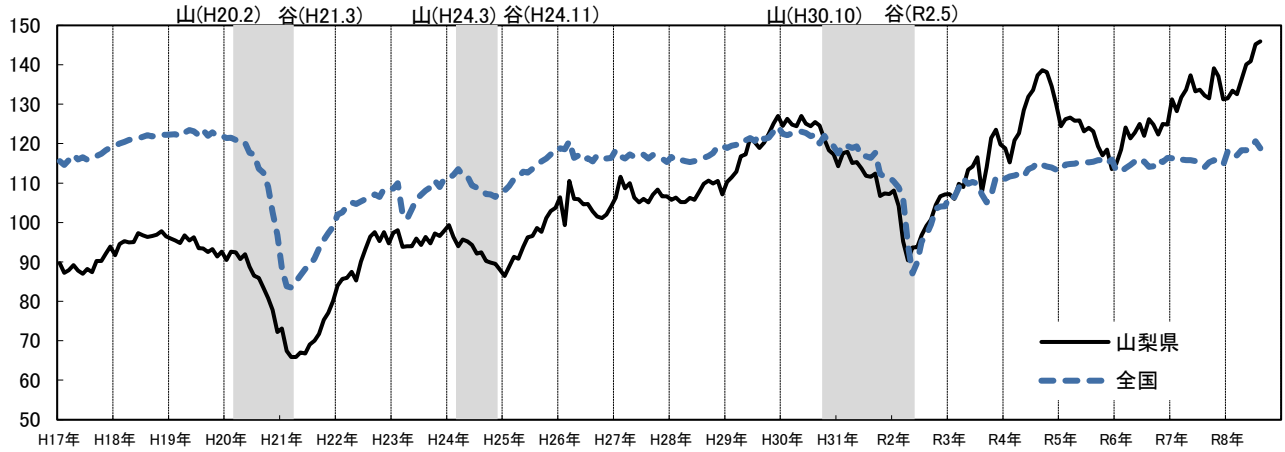
注1:山梨県CIの前月からの変化(前月差)が、各採用系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。
注2:(逆)とは逆サイクルのことを示し、採用系列が景気の動きに対し反対の方向に動くことをいう。
指数の前月差がプラスになれば、CI遅行指数に対する寄与度のマイナス要因となり、マイナスになればプラス要因になる。

4　CI時系列グラフ

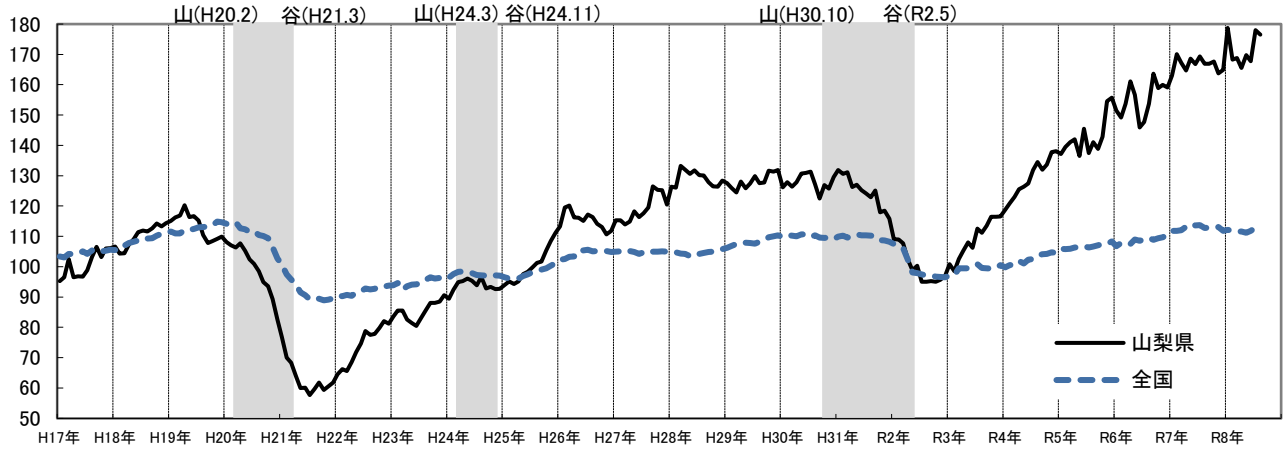
（先行指数）



（一致指数）



（遅行指数）



※　グラフ中の山・谷は内閣府発表による全国の景気基準日付です。

５　山梨県CI時系列表

（先行指数）

R2=100

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2016	H28	89.4	87.1	89.1	90.6	91.6	94.0	91.7	96.1	97.6	98.9	97.7	98.0
2017	H29	105.8	107.5	104.9	109.6	109.3	109.6	111.6	113.9	115.3	116.6	120.3	123.1
2018	H30	117.9	115.8	115.1	116.3	115.5	114.6	112.0	114.4	111.9	110.7	103.3	99.8
2019	H31/R1	101.7	110.1	107.7	110.6	113.1	108.7	114.1	107.5	106.8	103.8	107.7	111.4
2020	R2	109.8	107.4	103.1	90.3	86.0	88.2	95.3	100.7	101.4	99.0	107.3	111.5
2021	R3	111.2	122.6	131.7	128.1	135.5	135.3	133.3	125.6	123.7	131.3	131.4	132.0
2022	R4	133.1	131.0	143.3	142.6	138.0	148.9	147.2	150.8	150.5	145.1	136.5	130.4
2023	R5	129.7	136.7	137.7	144.0	140.0	138.4	136.1	135.5	136.2	125.8	134.2	135.8
2024	R6	132.8	133.5	139.6	142.9	151.8	148.4	149.2	150.5	153.0	155.1	145.8	148.1
2025	R7	146.5	147.2	143.2	144.8	144.8	145.5	146.1	146.8	146.6	157.1	148.8	144.2
2026	R8	154.9	163.0	159.0	176.9	180.4	179.4	170.2	174.4				

（一致指数）

R2=100

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2016	H28	105.7	106.3	105.2	105.2	106.2	105.7	107.8	109.8	110.6	109.9	110.5	107.1
2017	H29	110.3	111.4	112.9	116.8	117.3	121.4	120.3	118.9	120.3	122.5	125.1	127.0
2018	H30	124.5	126.3	124.8	124.4	127.0	125.1	124.4	125.5	124.6	121.1	118.3	117.3
2019	H31/R1	114.3	117.6	117.9	115.1	115.3	113.7	111.8	111.6	112.4	106.7	107.4	107.2
2020	R2	108.1	104.2	95.2	90.4	93.6	93.7	96.8	99.2	100.7	104.4	106.6	107.1
2021	R3	107.2	106.0	109.8	109.0	113.4	114.2	116.5	107.6	114.0	121.4	123.5	119.8
2022	R4	118.8	115.2	120.8	122.6	128.5	131.9	133.6	137.3	138.6	138.1	134.6	130.0
2023	R5	124.4	126.2	126.6	125.8	125.9	123.1	124.0	123.1	119.3	117.0	118.5	113.5
2024	R6	114.9	118.5	124.1	121.3	122.8	125.0	122.0	126.2	124.8	122.3	125.0	124.8
2025	R7	131.2	128.2	131.7	133.7	137.3	133.3	133.7	132.2	131.5	139.1	137.1	131.2
2026	R8	131.5	133.4	132.5	136.2	140.1	140.9	145.2	146.0				

（遅行指数）

R2=100

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2016	H28	126.4	126.1	133.2	132.0	130.6	131.8	130.2	130.1	127.8	126.5	126.4	128.4
2017	H29	127.5	125.9	124.5	128.1	125.8	127.4	129.9	127.5	127.7	131.6	131.3	131.9
2018	H30	126.2	127.8	126.4	127.8	130.7	130.9	131.3	127.1	122.5	126.9	125.7	129.5
2019	H31/R1	131.9	130.6	131.1	126.3	127.0	125.2	124.2	122.9	125.1	117.9	118.4	115.8
2020	R2	109.1	109.0	107.7	102.3	98.8	100.3	95.0	95.0	95.2	95.0	95.7	96.9
2021	R3	100.8	98.5	102.5	105.3	108.0	106.2	112.5	111.2	113.5	116.4	116.4	116.5
2022	R4	118.8	120.9	123.0	125.5	126.4	127.4	131.9	134.5	132.0	133.7	137.8	138.1
2023	R5	137.1	139.5	141.0	142.0	136.5	145.5	137.4	141.0	138.8	142.8	154.5	155.7
2024	R6	151.5	149.2	153.7	161.1	156.7	145.9	147.7	153.7	163.6	158.9	159.9	159.1
2025	R7	163.0	170.1	167.2	164.7	168.6	166.8	169.3	166.9	166.9	167.6	163.7	164.9
2026	R8	178.8	168.3	168.8	165.5	169.8	167.7	178.0	176.5				

６　（参考）山梨県DIの動向

先行指数　50.0%　･･･ 50%となった。
一致指数　60.0%　･･･ 5か月連続で50%を上回った。
遅行指数　60.0%　･･･ 2か月連続で50%を上回った。

個別系列の動向

	プラスの系列	連続月数	マイナスの系列	連続月数
先行系列	鉱工業生産指数(生産財)	1	鉱工業在庫率指数(逆)	2
	新規求人数(新規学卒を除く全数)	4	新設住宅着工戸数[前]	2
	法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI	1	東証業種別株価指数(電気機器)[前]	1
	日経商品指数(42種)	14	新車登録・届出台数(乗用車・貨物車)	2
一致系列	鉱工業生産指数(鉱工業)	4	百貨店・スーパー販売額[前]	3
	所定外労働時間指数(製造業30人以上)	3	県立美術館・富士山世界遺産センター(北館)来館者数	1
	有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	12		
遅行系列	第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	1	家計消費支出(二人以上の世帯)	1
	有効求職者数(逆)	2	常用雇用指数(製造業30人以上)[前]	1
	法人事業税(調定額)	1		

景気動向指数(DI)とは

・ 景気動向指数は、鉱工業生産指数や有効求人倍率など景気の動きに敏感な各経済部門から選ばれた系列の動きを統合して、単一の系列によって景気の動向を捉えようとしたもので、先行、一致、遅行の各系列の採用系列の変化を3か月前と比較し、改善した系列の割合で、景気の改善、悪化等その局面の方向性を示すものです。

※ 採用している基礎統計が確報値を公表するなどした場合、過去に遡って改訂します。

7 （参考）山梨県DI変化方向表

	系列名	令和7年 8月	9月	10月	11月	12月	令和8年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
先行系列	1 鉱工業在庫率指数(逆)	+	−	+	+	+	−	−	+	+	+	+	−	−
	2 鉱工業生産指数(生産財)	−	−	+	−	+	+	+	+	+	−	+	−	+
	3 新規求人数(新規学卒を除く全数)	−	+	+	+	−	+	−	+	−	+	+	+	+
	4 新設住宅着工戸数[前]	+	+	+	−	+	−	+	−	−	−	+	−	−
	5 東証業種別株価指数(電気機器)[前]	+	+	+	+	+	−	+	+	+	+	+	+	−
	6 法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI（中小企業 全産業 翌期） 注1	+	+	−	−	−	−	+	+	+	−	−	−	+
	7 新車登録・届出台数(乗用車・貨物車)	−	−	−	+	−	+	+	+	+	−	+	−	−
	8 日経商品指数(42種)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	拡張系列	5	5	6	5	5	4	6	7	6	4	7	3	4
	採用系列	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	先行指数(D.I.)（%）	62.5	62.5	75.0	62.5	62.5	50.0	75.0	87.5	75.0	50.0	87.5	37.5	50.0
一致系列	1 鉱工業生産指数(鉱工業)	−	−	+	+	+	+	+	−	−	+	+	+	+
	2 百貨店・スーパー販売額[前]	−	+	+	+	−	−	−	−	−	+	−	−	−
	3 所定外労働時間指数(製造業30人以上)	−	−	+	+	+	−	+	−	+	−	+	+	+
	4 有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	−	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	5 県立美術館・富士山世界遺産センター(北館)来館者数	−	−	+	−	−	−	−	+	+	+	+	+	−
	拡張系列	0	2	5	4	3	2	3	2	3	4	4	4	3
	採用系列	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	一致指数(D.I.)（%）	0.0	40.0	100.0	80.0	60.0	40.0	60.0	40.0	60.0	80.0	80.0	80.0	60.0
遅行系列	1 実質法人企業設備投資(製造業) 注1	−	−	−	−	−	−	−	−	+	+	+		
	2 第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	−	+	+	−	−	+	+	+	−	−	+	−	+
	3 家計消費支出(二人以上の世帯)	+	−	−	−	−	+	+	+	−	+	−	+	−
	4 常用雇用指数(製造業30人以上)[前]	0	+	+	+	+	+	+	+	−	−	+	+	−
	5 有効求職者数(逆)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	−	+	+
	6 法人事業税(調定額)	−	+	+	−	−	+	+	+	−	+	−	−	+
	拡張系列	2.5	4	4	2	2	5	5	5	2	4	3	3	3
	採用系列	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5
	遅行指数(D.I.)（%）	41.7	66.7	66.7	33.3	33.3	83.3	83.3	83.3	33.3	66.7	50.0	*60.0*	60.0

注1 「L6 法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI（中小企業 全産業 翌期）」及び「LG1実質法人企業設備投資(製造業)」は四半期データであるため、四半期に該当する3か月のそれぞれの変化量を等しいとして線形補間しています。（4－6月期であれば6月に四半期値を代入）
注2 今回修正した指数は斜体文字で表しています。

（参考：経済関係レポート等抜粋）

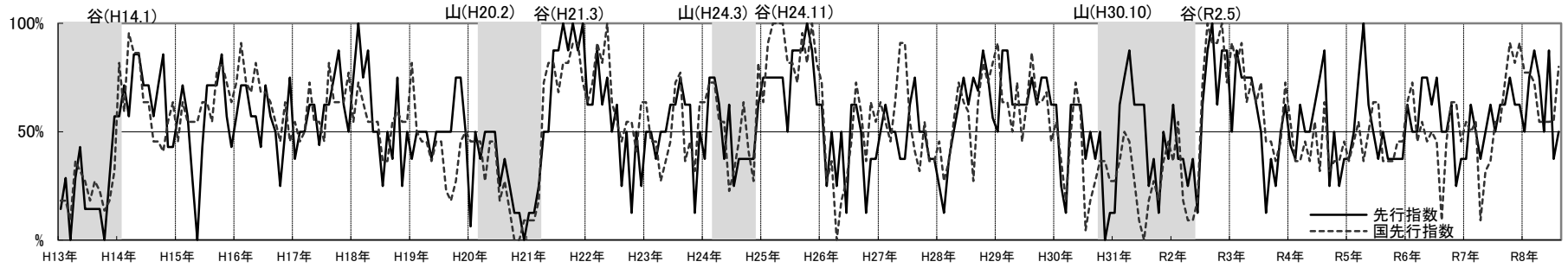
月例経済報告（令和８年１０月・内閣府・１０月２７日公表）
景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。
先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。

景気動向指数（令和８年８月分・内閣府経済社会総合研究所・１０月２６日公表）
景気動向指数（ＣＩ一致指数）は、改善を示している。
ＣＩ先行指数　117.6　→　118.0
ＣＩ一致指数　120.6　→　118.8
ＣＩ遅行指数　112.9　→　112.4

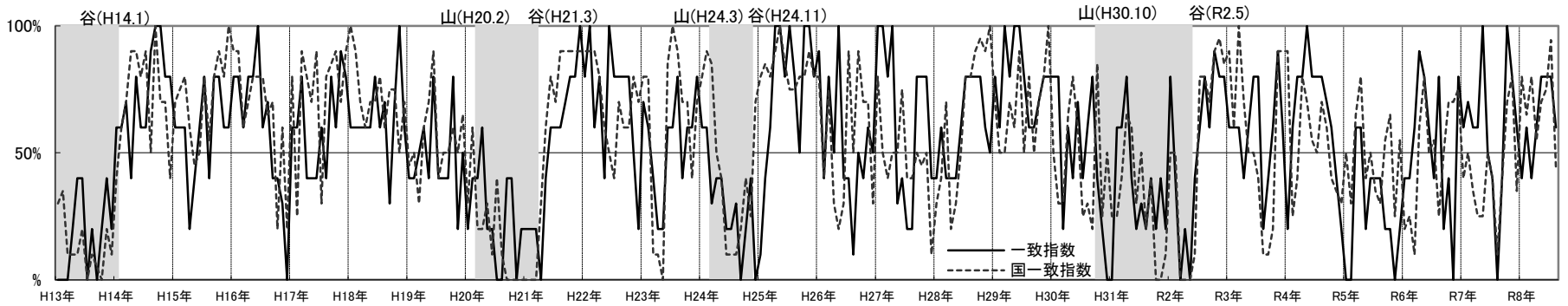
山梨県金融経済概観（２０２６年１０月・日本銀行甲府支店・１０月１９日公表）
県内景気は、緩やかに持ち直している。
個人消費は、緩やかに回復している。
生産は、緩やかに持ち直している。

８　（参考）山梨県DI時系列グラフ

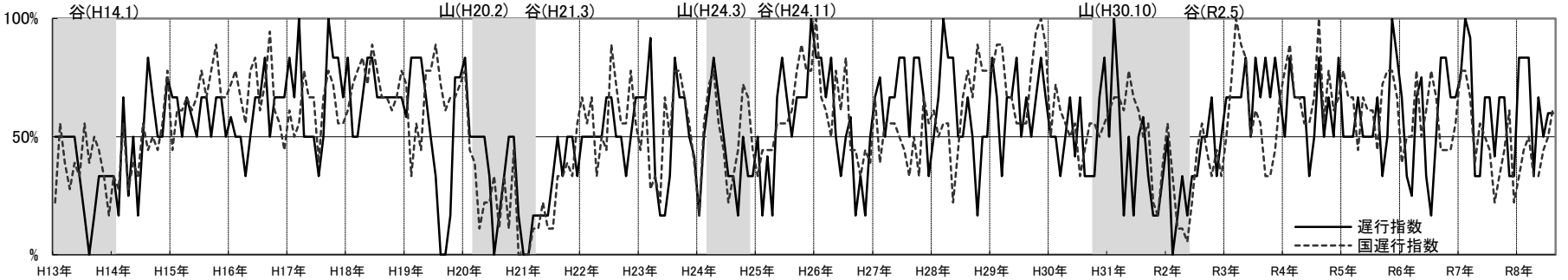
（先行指数）



（一致指数）



（遅行指数）



※ グラフ中の山・谷は内閣府発表による全国の景気基準日付です。

９　（参考）山梨県DI時系列表

（先行指数）

単位(%)

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2016	H28	25.0	12.5	37.5	50.0	62.5	75.0	62.5	75.0	68.8	87.5	75.0	56.3
2017	H29	50.0	87.5	87.5	62.5	62.5	62.5	62.5	75.0	62.5	75.0	75.0	62.5
2018	H30	62.5	25.0	12.5	62.5	62.5	62.5	37.5	50.0	37.5	50.0	0.0	12.5
2019	H31/R1	12.5	62.5	75.0	87.5	62.5	62.5	62.5	25.0	37.5	12.5	50.0	37.5
2020	R2	62.5	37.5	37.5	25.0	37.5	12.5	62.5	87.5	100.0	62.5	87.5	87.5
2021	R3	50.0	87.5	75.0	75.0	75.0	62.5	50.0	12.5	37.5	25.0	50.0	62.5
2022	R4	43.8	37.5	62.5	50.0	50.0	62.5	75.0	87.5	25.0	50.0	25.0	37.5
2023	R5	37.5	50.0	75.0	100.0	62.5	50.0	37.5	50.0	37.5	37.5	37.5	37.5
2024	R6	62.5	50.0	50.0	75.0	75.0	62.5	75.0	50.0	50.0	62.5	25.0	37.5
2025	R7	37.5	62.5	50.0	37.5	50.0	62.5	50.0	62.5	62.5	75.0	62.5	62.5
2026	R8	50.0	75.0	87.5	75.0	50.0	87.5	37.5	50.0				

（一致指数）

単位(%)

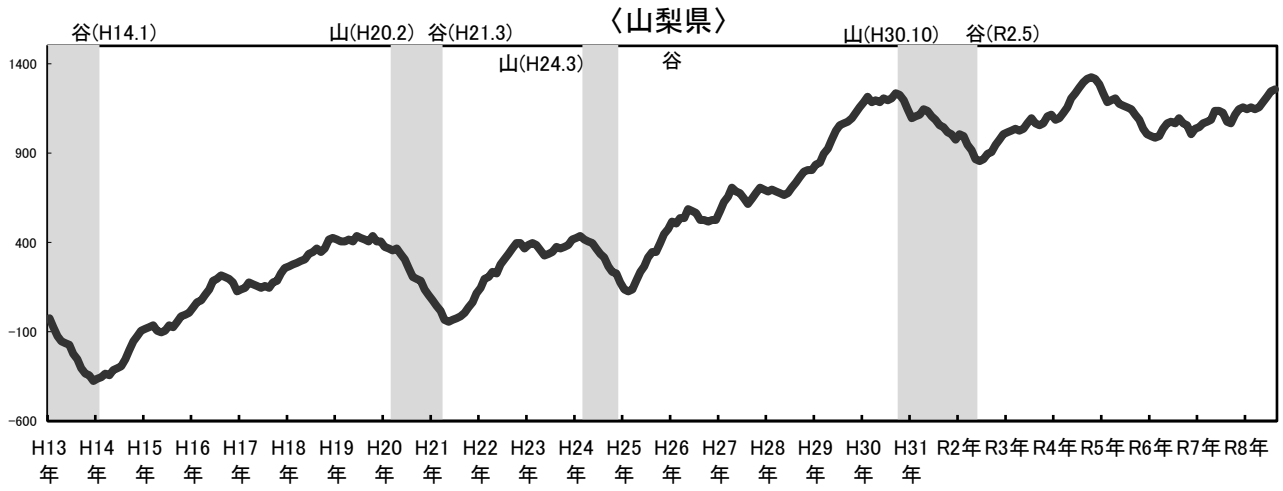
西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2016	H28	40.0	60.0	40.0	40.0	40.0	60.0	80.0	80.0	80.0	80.0	60.0	50.0
2017	H29	80.0	60.0	100.0	80.0	100.0	100.0	80.0	60.0	60.0	70.0	80.0	80.0
2018	H30	80.0	80.0	20.0	60.0	40.0	70.0	40.0	60.0	80.0	40.0	20.0	0.0
2019	H31/R1	0.0	60.0	60.0	80.0	40.0	20.0	30.0	20.0	40.0	20.0	40.0	20.0
2020	R2	80.0	40.0	0.0	20.0	0.0	40.0	60.0	80.0	60.0	90.0	80.0	80.0
2021	R3	60.0	60.0	60.0	40.0	60.0	80.0	80.0	20.0	40.0	60.0	90.0	60.0
2022	R4	20.0	60.0	80.0	80.0	100.0	80.0	80.0	80.0	70.0	60.0	40.0	20.0
2023	R5	0.0	0.0	60.0	60.0	20.0	40.0	40.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0
2024	R6	40.0	40.0	60.0	90.0	80.0	60.0	40.0	80.0	20.0	40.0	0.0	80.0
2025	R7	60.0	70.0	60.0	60.0	100.0	50.0	40.0	0.0	40.0	100.0	80.0	60.0
2026	R8	40.0	60.0	40.0	60.0	80.0	80.0	80.0	60.0				

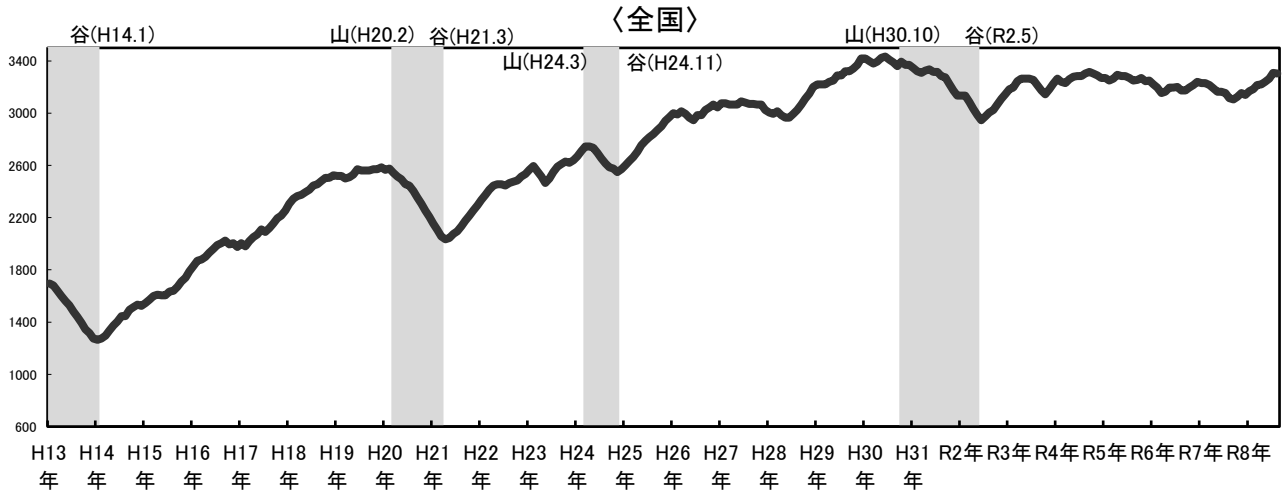
（遅行指数）

単位(%)

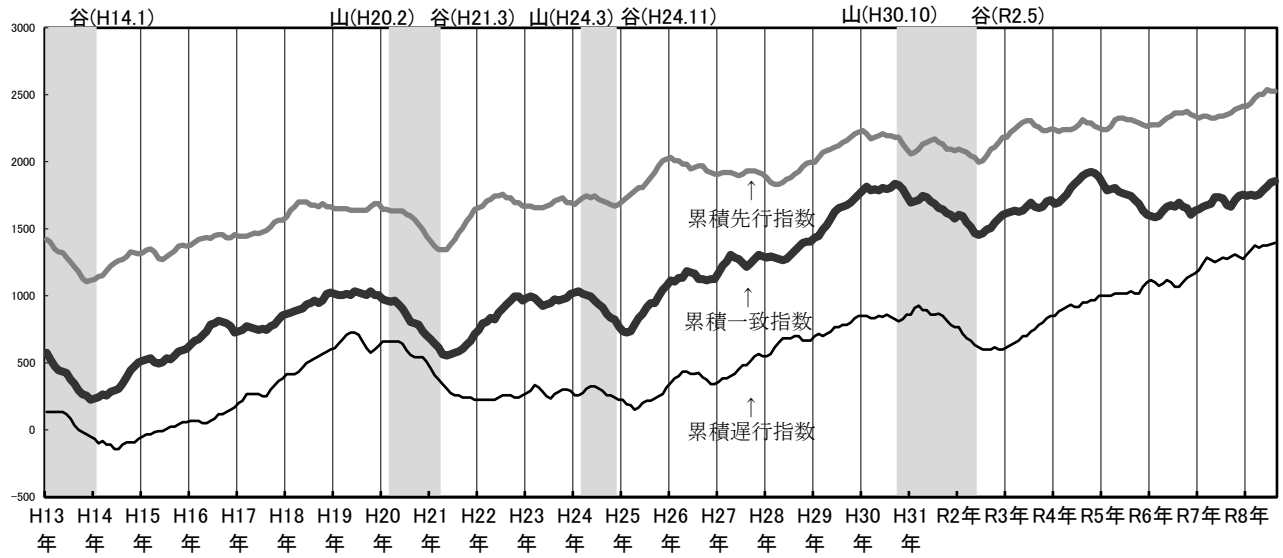
西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2016	H28	50.0	66.7	100.0	83.3	83.3	50.0	50.0	66.7	50.0	16.7	50.0	50.0
2017	H29	83.3	66.7	33.3	66.7	66.7	83.3	50.0	66.7	50.0	66.7	83.3	66.7
2018	H30	50.0	50.0	33.3	50.0	66.7	41.7	66.7	33.3	33.3	33.3	66.7	83.3
2019	H31/R1	50.0	100.0	66.7	16.7	50.0	16.7	50.0	58.3	33.3	16.7	16.7	33.3
2020	R2	50.0	0.0	16.7	33.3	16.7	33.3	33.3	50.0	50.0	66.7	33.3	50.0
2021	R3	66.7	66.7	66.7	66.7	83.3	50.0	83.3	66.7	83.3	66.7	83.3	66.7
2022	R4	50.0	83.3	66.7	66.7	66.7	33.3	50.0	83.3	50.0	66.7	50.0	83.3
2023	R5	50.0	50.0	50.0	66.7	50.0	50.0	50.0	66.7	33.3	50.0	100.0	83.3
2024	R6	66.7	33.3	25.0	66.7	75.0	33.3	16.7	50.0	83.3	83.3	66.7	66.7
2025	R7	75.0	100.0	91.7	33.3	33.3	66.7	66.7	41.7	66.7	66.7	33.3	33.3
2026	R8	83.3	83.3	83.3	33.3	66.7	50.0	60.0	60.0				

10　DI累積一致指数時系列グラフ





山梨県DI累積指数グラフ（先行・一致・遅行）



（注1）累積指数グラフは、景気の局面や山・谷を視覚的に捉えることができます。ただし、グラフ上の山の大きさや
高さは景気の強弱や水準とは無関係です。なお、累積指数は各月のDI指数を次式により累積したものです。
累積DI＝前月までの累積DI＋（当月のDI－50）
（注2）グラフを見やすくするため、先行指数は1500、一致指数は600を加算しています。
（注3）グラフ中の山・谷は内閣府発表による全国の景気基準日付です。

11　山梨県景気動向指数個別系列の概要

	系列名	季節調整 方法等	作成機関	資料出所
先行系列	鉱工業在庫率指数(逆)	X-12-ARIMA	山梨県新価値創造推進局統計調査課調査第二担当	鉱工業指数
	鉱工業生産指数(生産財)	X-12-ARIMA	山梨県新価値創造推進局統計調査課調査第二担当	鉱工業指数
	新規求人数(新規学卒を除く全数)	X-12-ARIMA	山梨労働局職業安定部	時系列職業紹介統計表
	新設住宅着工戸数[前]	前年同月比	国土交通省	建築着工統計調査
	東証業種別株価指数(電気機器)[前]	前年同月比	(株)東京証券取引所	株価指数・株価平均
	法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI(中小企業　全産業　翌期)◆ 注1	実数	甲府財務事務所	法人企業景気予測調査結果(山梨県分)
	新車登録・届出台数(乗用車・貨物車)	X-12-ARIMA※	山梨県自動車販売店協会 山梨県軽自動車協会	新車登録・届出状況
	日経商品指数(42種総合)	原数値	(株)日本経済新聞社	日本経済新聞
一致系列	鉱工業生産指数(鉱工業)	X-12-ARIMA	山梨県新価値創造推進局統計調査課調査第二担当	鉱工業指数
	百貨店・スーパー販売額[前]	前年同月比	経済産業省	商業動態統計調査
	所定外労働時間指数(製造業30人以上)	X-12-ARIMA※	山梨県新価値創造推進局統計調査課調査第一担当	県毎月勤労統計調査
	有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	X-12-ARIMA	山梨労働局職業安定部	時系列職業紹介統計表
	県立美術館・富士山世界遺産センター(北館)来館者数 注2	X-12-ARIMA※	山梨県観光文化・スポーツ部文化振興・文化財課 山梨県観光文化・スポーツ部富士山観光振興グループ	作成機関資料
遅行系列	実質法人企業設備投資(製造業)◇ 注1	X-12-ARIMA	財務省	法人企業統計季報
	第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	X-12-ARIMA	経済産業省	第3次産業活動指数
	家計消費支出(二人以上の世帯)	X-12-ARIMA※	総務省	家計調査報告
	常用雇用指数(製造業30人以上)[前]	前年同月比 X-12-ARIMA※	山梨県新価値創造推進局統計調査課調査第一担当	県毎月勤労統計調査
	有効求職者数(逆)	X-12-ARIMA	山梨労働局職業安定部	労働市場の動き
	法人事業税(調定額)	X-12-ARIMA※	山梨県総務部税務課	県税徴収状況(作成機関資料)

※山梨県景気動向指数を作成する際に、独自に季節調整を行っています。

注1) ◆及び◇は、四半期データであるため、月次のDIを計算するため四半期に該当する3か月のそれぞれの変化量を等しいと仮定して線形補間しています(4－6月期であれば6月に四半期値を代入)。

注2) 平成28年5月まで富士ビジターセンター来館者数を使用し、平成28年6月から富士山世界遺産センター(北館)来館者数を使用しています。

12　山梨県景気動向指数個別系列の数値

（先行系列）

系列 年　月	鉱工業在庫率指数(逆) 季節調整値 %	鉱工業生産指数(生産財) 季節調整値 R2=100	新規求人数(新規学卒を除く全数) 季節調整値 人	新設住宅着工戸数[前] 前年同月比 %	東証業種別株価指数(電気機器)[前] 前年同月比 %	法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI(中小企業全産業　翌期) 実数 %ポイント	新車登録・届出台数(乗用車・貨物車) 季節調整値※ 台	日経商品指数(42種) 原指数 1970年=100
R7. 8	115.2	87.7	5,838	109.4	109.1	8.5	2,606	264.760
9	116.9	84.1	5,659	86.6	117.6	10.0	2,831	265.171
10	104.0	87.1	5,592	164.6	136.6	3.6	2,788	269.652
11	112.3	84.7	5,919	109.2	135.9	△ 2.7	2,701	269.753
12	112.7	87.2	5,518	106.8	129.0	△ 9.1	2,693	269.868
R8. 1	113.1	92.9	5,848	112.4	133.9	△ 4.2	2,892	275.607
2	112.5	87.5	5,864	176.8	149.4	0.8	3,012	279.402
3	108.3	88.6	5,866	88.3	131.0	5.7	2,873	284.362
4	97.8	96.0	5,551	95.4	158.9	△ 2.5	3,242	294.176
5	92.9	86.7	6,217	122.6	176.9	△ 10.6	2,911	300.223
6	102.3	89.6	6,254	133.9	181.5	△ 18.8	3,280	296.583
7	109.1	89.0	6,052	93.2	161.1	△ 13.5	3,027	300.559
8	99.4	88.8	6,478	88.1	164.4	△ 8.1	2,597	304.303

（一致系列）

系列名 年　月	鉱工業生産指数(鉱工業) 季節調整値 R2=100	百貨店・スーパー販売額[前] 前年同月比 %	所定外労働時間指数(製造業30人以上) 季節調整値※ R2=100	有効求人倍率(新規学卒を除く全数) 季節調整値 倍	県立美術館・富士山世界遺産センター(北館)来館者数 季節調整値※ 人
R7. 8	104.9	105.2	81.2	1.28	37,159
9	99.9	105.2	85.2	1.31	32,577
10	108.4	107.0	89.2	1.31	42,081
11	105.3	107.0	90.4	1.32	35,690
12	103.0	103.6	91.8	1.32	19,109
R8. 1	114.3	100.9	89.1	1.32	18,718
2	107.5	99.7	97.2	1.34	20,694
3	102.6	97.0	91.3	1.38	25,431
4	107.5	98.9	93.9	1.37	27,180
5	108.7	101.8	92.4	1.37	34,728
6	110.4	95.6	98.2	1.42	30,700
7	109.4	98.6	105.5	1.47	28,684
8	110.3	98.9	98.2	1.50	31,789

（遅行系列）

系列名 年　月	実質法人企業設備投資(製造業) 季節調整値 百万円	第3次産業活動指数(対事業所サービス業) 季節調整値 R2=100	家計消費支出(二人以上の世帯) 季節調整値※ 円	常用雇用指数(製造業30人以上)[前] 前年同月比 季節調整値※ %	有効求職者数(逆) 季節調整値 人	法人事業税(調定額) 季節調整値※ 百万円
R7. 8	4,816,627	108.9	286,913	93.3	12,661	2,665
9	4,736,421	109.5	272,065	93.7	12,597	2,806
10	4,732,013	109.7	264,258	94.5	12,603	2,813
11	4,727,604	108.6	251,817	94.1	12,572	2,627
12	4,723,196	108.5	268,285	94.6	12,450	2,424
R8. 1	4,718,183	111.7	292,519	110.6	12,505	3,884
2	4,713,171	109.3	288,094	106.5	12,266	2,751
3	4,708,158	109.7	316,689	102.1	12,177	3,148
4	4,735,355	109.2	267,305	102.1	12,208	3,130
5	4,762,553	108.9	365,308	103.0	12,252	3,009
6	4,789,750	110.2	266,590	105.0	12,199	1,792
7		108.9	295,973	107.0	12,008	2,533
8		109.9	281,150	100.6	12,043	3,158

※ 山梨県景気動向指数を作成する際に、独自に季節調整を行っています。

利　用　の　手　引　き

1 景気動向指数の概要

○ 景気動向指数

景気動向指数は、生産、雇用など様々な経済活動での重要かつ景気に敏感に反応する指標の動きを統合することによって、景気の現状把握及び将来予測に役立てるために作成された指標です。

なお、景気動向指数は、各経済部門から選ばれた指標の動きを統合して、単一の指標によって景気を把握しようとするものであり、すべての経済指標を総合的に勘案して景気を捉えようとするものではないことに配慮する必要があります。

○ CIとDI

景気動向指数には、コンポジット・インデックス(CI:Composite Index)とディフュージョン・インデックス(DI:Diffusion Index)があります。CIは構成する指標の動きを合成することで景気変動の大きさやテンポ(量感)を、DIは構成する指標のうち、改善している指標の割合を算出することで景気の各経済部門への波及の度合い(波及度)を測定するための指数です。 CIとDIは共通の指標を採用しており、採用系列数は先行指数8、一致指数5、遅行指数6の19系列です。

○ 先行指数、一致指数、遅行指数

CIとDIには、それぞれ、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3つの指数があります。景気の現状把握に一致指数を利用し、先行指数は、一般的に、一致指数に数か月先行することから、景気の動きを予測する目的で利用します。遅行指数は、一般的に、一致指数に数か月から半年程度遅行することから、事後的な確認に用います。

2 山梨県CI

○ 目的

山梨県CIの作成は、主として景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としています。

○ 利用の仕方

一般的に、山梨県CI一致指数が上昇している時は景気の拡張局面、低下している時は後退局面であり、山梨県CI一致指数の動きと景気の転換点は概ね一致します。山梨県CI一致指数の変化の大きさから、景気の拡張又は後退のテンポを読み取ることができます。月ごとの山梨県CI一致指数には不規則な動きも含まれていることから、移動平均値をとることにより、ある程度の期間の月々の動きをならす必要があります。そのことから、毎月の統計表には、足下の基調の変化をつかみやすい3か月後方移動平均と、足下の基調の変化が定着しつつあることを確認する7か月後方移動平均をあわせて掲載しています

○ 作成方法

山梨県CIの作成方法は、内閣府のCI作成方法に準じています。山梨県CIの作成方法を簡潔に述べると、山梨県DIの個別指標における前月比変化率を過去の平均的な変動と比較することによって基準化し、それらの平均を求めて合成し、指数化します。詳しくは内閣府のホームページをご覧ください。(http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/di3.html#link002)

3 山梨県DI

○ 目的

山梨県DIの作成は、景気拡張の動きの各経済部門への波及度合いを測定することを目的としています。

○ 利用の仕方

山梨県DIは採用系列のうち改善している指標の割合のことで、景気の各経済部門への波及の度合いを表します。月々の振れがあるものの、一般的には景気拡張局面では50%を上回り、後退局面では50%を下回る傾向があります。

なお、山梨県DIは、景気が拡張傾向あるいは後退傾向のいずれにあるかを判断する指標であり、景気変化の強さを表すものではありません。

○ 作成方法

各個別系列の数値を3か月前と比較して、増加したときは＋を、減少したときはーを、変化のなかったときは0をつけます。(景気が良ければ減少し、悪ければ増加する性質のある逆サイクルの系列は増加をー、減少を＋とします。)

その上で、先行、一致、遅行の各系列ごとに、採用系列数に占める拡張系列数(＋の数)の割合(%)を求めます。

ＤＩ＝拡張系列数／採用系列数×100（%）
（0（もちあい）は0.5としてカウントします。）

4 CIとDIの違い

DIは景気の各経済部門への波及の度合いを表す指標です。そのため、各採用系列が大幅に拡張しても、小幅に拡張しても、拡張系列の割合が同じならば同じ山梨県DIが計測されます。一方、CIは景気の強弱を定量的に計測する指標ですので、DIが同じ数値で計測されたとしても、各採用系列が大幅に拡張していればCIも大幅に上昇し、各採用系列が小幅に拡張しているならばCIも小幅に上昇します。このように、CIはDIでは計測できない景気の山の高さや谷の深さ、拡張や後退の勢いといった景気の「量感」を計測することができます。

一方、DIが異なる数値で計測されたとしても、多くの系列で小幅に拡張した時と、一部の系列が大幅に上昇した時とで、同じCIの上昇幅が得られる場合があります。このように、CIの変化幅そのものからは経済部門の相違を把握することが難しいため、CIの変化幅に対する各採用系列の寄与度やDIをあわせて利用することが望ましいとされています。

5　山梨県景気動向指数の改訂

○ 遡及改訂等

採用している基礎統計が確報値を公表するなどした場合、過去にさかのぼって改訂します。また、未発表の系列がある月については、現時点で得られる値のみで求めています。その際得られなかった値については空欄としています。

○ 採用系列の入替え

景気動向指数の作成にあたっては、その採用系列が現在の景気の動きを十分に反映しているかどうか点検を行い、必要に応じて入替えを行っています。

山梨県では、平成28年4月分から採用系列の入替えを実施しました。

○ 公表時期

平成28年4月分から、公表時期を対象月の3か月後の月初めから翌々月末に変更しました。

○ 公表形態の移行

山梨県においては、平成23年12月分からDI(試行版)の公表を開始し、平成25年11月分から試行版を外すとともに、CI一致指数を参考値として公表開始しました。また、平成28年4月分から従来のCI一致指数に加え、CI先行指数及びCI遅行指数を参考値として併せて公表を開始しました。

その後、景気変動の大きさや量感を把握することがより重要になったため、平成28年10月分からCIを中心とした公表形態に移行しました。なお、DIも景気の波及度を把握するために重要な指標ですので、参考指標として引き続き作成・公表しています。

次回の公表：令和8年9月分の公表は令和8年11月末の予定です。